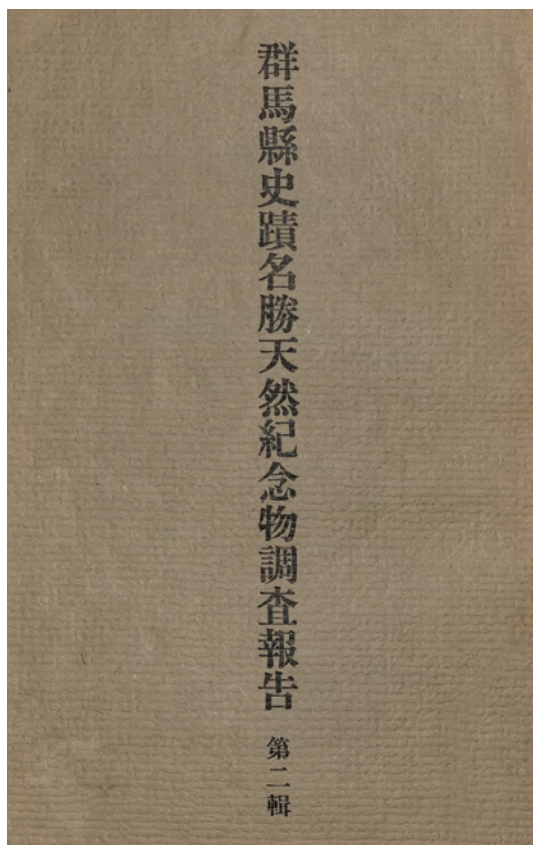


# 群馬県史蹟名勝天然記念物 調査報告 第二輯

復刊版



群馬地域文化振興会

群馬縣史蹟名勝天然紀念物調查報告

第二輯



## 凡 例

一、本輯には上芝古墳趾及八幡塚古墳の二調査報告を載録した。上芝古墳趾は昭和四年二月、八幡塚古墳は同年四月發掘調査を爲したもので、何れも其の類例に乏しく考古學上貴重なる發見として、當時中央・地方の學界を賑はしたものである。

一、右調査は何れも本縣史蹟名勝天然記念物調査會臨時委員たりし故福島武雄氏の主として擔當せる所で、委員岩澤正作氏、臨時委員相川龍雄氏等之を援助し又顧問柴田常惠氏の實地指導を受けたものである。

一、従つて本報告は二編共に福島委員の原稿に基くものであるが、氏は其の報告書執筆中、昭和四年秋より病を得遂に之が完成を見ずして翌五年秋思ひを残して逝かれた。寔に哀惜の極みである。依て爾來岩澤・相川兩委員に其の整理を囑し、相川委員は遺物篇を、岩澤委員は其の他を擔當して以て完成した次第である。一、兩編中其の結論は全く岩澤委員、上芝古墳趾の遺物篇は殆ど相川委員の新たに

ものせる所である。蓋し上芝古墳趾發掘遺物は帝室博物館に於て苦心整理の上夫々復原せられたが、福島委員は遂に之を視察調査する機なく且兩編を通じ、其の結論を稿するに至らずして病床につかれるに至つたに因る。然しながら各委員は其の發掘調査中は勿論、其の後に於ても細大となく克く協議研究を遂げてゐたので、故福島委員の遺志を全ふしたものとみて差支はない。

一、兩古墳の發掘調査及報告書の作製に當つては東京帝室博物館を初め各地元町村役場當局、有志者、兩村史蹟保存會、上郊村青年團等の好意に俟つものが多かつた。特に記して深甚の謝意を表するものである。

昭和七年三月



(昭和四年八月撮影)

兒遺と員委島福るけ逝

本報告書の筆者、本縣史蹟名勝天然紀念物調査會臨時委員福島武雄氏は明治三十一年十月十七日群馬郡總社町大字高井に生る。大正十二年早稻田大學理工學部探鑛冶金學科を卒へるや其の專攻に従ひ、一旦業に就きしも昭和二年春故ありて郷里に退く。

氏は早稻田在學中より史學に興味を有ち、殊に築城方面に付ての研究淺からざるものありしが、此の頃より益々考古學に興味を感じ特に其の専門的見地に立脚せる古墳、古城址等の調査研究に於ては斯界に貢獻せる所尠からず。其の間箕輪城考、古城址調査の榮等の著幾多論文の發表あり、頗る前途を囑目せられつゝありしが、偶本報告書執筆中、昭和四年秋不幸病魔の冒すところとなり、同年末前橋市堀川町に居を移し専ら療養に努めつゝありしも快癒に至らず、遂に三十三歳の有爲を以て翌五年九月十日其の假寓に逝く、塞に惜みて餘りあり。記して以て聊か其の靈を慰むる所あらむとす。

# 目次

## 上芝古墳陞

### 序説

- 第一節 位置及地形……………一
- 第二節 發掘前の状態……………四
- 第三節 發掘の經過……………七

### 本論

#### 第一章 現狀篇

- 第一節 古墳の主體……………九
- 第二節 埴輪圓筒……………一〇
- 第三節 形象埴輪……………一三
- 第四節 土留石垣と葺石……………一七



第二章 土層篇……………一六

第一節 附近の土層……………一六

第二節 埴輪圓筒と土層……………二二

第三節 涅及葺石と土層……………二三

第四節 土層上より見たる古墳築造當時の地形……………二七

第三章 遺物篇……………三〇

第一節 形象埴輪……………三〇

(一) 武裝男子、(二) 彩文の縷を着けたる女子、(三) 男子埴輪首部

(四) 馬埴輪首部

結論……………三六

八幡塚 古墳

序 説……………四五

第一節 位置及地勢……………四五

本

論

..... 七六

第一章 現状篇

..... 七六

第一節 墳丘との關係

..... 七六

第二節 埴輪圓筒の配列

..... 七六

(一) 埴外土壘上の圓筒列、(二) 陪塚の圓筒列、(三) 墳丘上の圓筒列

第三節 形象埴輪

..... 八二

(一) A 區域、(二) B 區域、(三) C 區域

第四節 陪塚

..... 八七

第二章 土層篇……………一九二

第一節 古墳附近の土層……………一九二

第二節 圓筒埴輪及形象埴輪と土層……………一九四

第三節 涅土壘及墳丘と土層……………一九六

(一) 涅外の土壘、(二) 涅、(三) 墳丘

第四節 古墳築造當時の地形……………一九七

第三章 遺物篇……………一九七

第一節 埴輪圓筒……………一九七

第二節 形象埴輪……………一九三

第三節 土器類……………一九五

第四節 玉類……………一九七

結論……………一九九

## 本文挿圖目次

第一圖	箕輪附近地形圖……………	三
第二圖	上芝古墳址並附近地籍圖……………	五
第二圖ノ二	上芝古墳址滄外土壘C點の異形埴輪……………	一五
第三圖	上芝古墳址土層柱狀圖……………	一九
第四圖	埴輪馬首部實測圖……………	三四
第五圖	埴輪馬の馬鐸と脚部實測圖……………	三五
第五圖ノ二	上芝古墳址御見學中の伏見宮博英王殿下……………	四二
第六圖	保渡田八幡塚古墳附近地形圖……………	四六
第七圖	八幡塚古墳並附近地籍圖……………	四八
第八圖	八幡塚古墳の全景……………	五一
第九圖	八幡塚古墳石槨實測圖……………	五二
第一〇圖	傳、八幡塚古墳石棺中より發見の八幡神像……………	五七

第一一圖	八幡塚古墳石棺中より發見の馬具(杏葉及鏡柄)……………	五七
第一二圖	八幡塚墳域内土層標式柱狀圖……………	九三
第一三圖	椅子埴輪(參考)……………	一四
第一四圖	椅子に胡坐する女子土偶(參考)……………	一五
第一五圖	玉纏太刀實測圖……………	二四
第一六圖	玉纏太刀を肩に捧持する男子土偶(參考)……………	二五
第一七圖	玉纏太刀を模したる埴輪(參考)……………	二七
第一八圖	鷹の趾のつきたる腕部……………	二九
第一九圖	鷹匠を模したる土偶(參考)……………	三〇
第二〇圖	埴輪馬頭部殘缺實測圖……………	三五
第二一圖	猪を負ふ狩獵者の埴輪(參考)……………	三九
第二二圖	掛甲武士の頭部實測圖……………	四〇
第二三圖	瓠形土器(參考)……………	四二
第二四圖	球形土器實測圖……………	四三

## 圖 版 目 次

- 圖版第一 上芝古墳趾發掘原狀實測圖
- 圖版第二 上芝古墳趾形象埴輪發見位置實測圖
- 圖版第三 上芝古墳趾埴輪の配列(其の一)南方部全景、東南部(其の二)形象埴輪樹立區、南及北より
- 圖版第四 上芝古墳趾石垣及石壘(圓筒列内環狀土留石垣、前方部北斜面土留石壘)
- 圖版第五 上芝古墳趾斷面實測圖 其の一(圓筒列附近其の他)
- 圖版第六 上芝古墳趾斷面實測圖 其の二(五圖)
- 圖版第七 上芝古墳趾埴輪圓筒(寫眞及實測圖)
- 圖版第八 上芝古墳趾發掘埴輪土偶(武裝男子、彩文襪を着けたる女子、男子首部)
- 圖版第九 八幡塚古墳實測圖(附復原實測圖)
- 圖版第一〇 八幡塚古墳形象埴輪樹立區實測圖(A區及B區に於けるもの)
- 圖版第一一 八幡塚古墳形象埴輪群 其の一(馬の列と其の附近、水鳥の列)

圖版第一二 八幡塚古墳形象埴輪群 其の二(A區西南隅形象埴輪群集區域の南

西部圓筒列より内面を示す、土偶の腰かけたる梯形の蓋と其の附近)

圖版第一三 八幡塚古墳東陪塚實測圖

圖版第一四 八幡塚古墳東陪塚東部土師器類發掘現場及其の排列實測圖

圖版第一五 八幡塚古墳埴輪圓筒(西南部壘上内側、同隅角部に使用せる特殊圓筒)

圖版第一六 八幡塚古墳土層斷面實測圖(五圖)

圖版第一七 八幡塚古墳前方部西南隅角附近の葺石

圖版第一八 八幡塚古墳發掘埴輪圓筒實測圖(普通圓筒、特殊圓筒、土師器の入り

たる圓筒、筥書ある圓筒)

圖版第一九 八幡塚古墳東陪塚埴輪圓筒列

圖版第二〇 八幡塚古墳發掘臺に腰かけたる女子埴輪土偶

圖版第二一 八幡塚古墳發掘埴輪 其の一(美豆良を著けたる男子土偶の頭部、埴

を捧ぐる土偶、腕、半圓形の鋸ある帽を被りたる男子土偶頭部、圓筒の

内側に造りつけしと推定さるる顔面部)

圖版第二二

八幡塚古墳發掘埴輪 其の二(美豆良の各種、鷹の趾をつけたる腕及

球形土器)

圖版第二三

八幡塚古墳發掘埴輪 其の三(脚結の鈴を着けたる脚部、鈴を着けざ

る脚部)

圖版第二四

八幡塚古墳發掘埴輪 其の四(玉纏の太刀を佩びたる武人の腰部)

圖版第二五

八幡塚古墳發掘埴輪 其の五(玉纏の太刀、各種太刀の斷片)

圖版第二六

八幡塚古墳發掘埴輪 其の六(袈裟をかけたる婦人の殘缺、器物を模

したるもの、水鳥及鷄の頭部殘缺)

圖版第二七

八幡塚古墳發掘埴輪 其の七(馬の殘缺、馬の脚部、野猪)

圖版第二八

八幡塚古墳發掘土師器類(高坏及坏・盤・埴・長頸埴及坏の中に入りたる埴)

圖版第二九

八幡塚古墳發掘土師器類實測圖 其の一

圖版第三〇

八幡塚古墳發掘土師器類實測圖 其の二





# 群馬縣史蹟名勝天然紀念物調査報告 第二輯

## 上芝古墳址

### 序 說

本古蹟は夙に平夷せられ、外見上其の古墳たることを認め得なかつたのであるが、偶地目變更のため再び開拓するに際して、埴輪圓筒列等を發見し、始めて其の古墳址たることを確め得たのである。従つて其の名稱等も傳はらぬまゝに、所在地字名を附して上芝古墳址と稱せらるゝに至つた。

#### 第一節 位置及地形

上芝古墳址は、群馬郡箕輪町大字上芝字本町一〇九三番宅地内に存し、昭和四年二月二十四日發見された。

箕輪町は前橋市よりは西方、高崎市よりは西北方に當り、何れも約三里を隔て、上野三山の一なる榛名山の東南麓の盡きんとする處に位し、北は緩傾斜をなして山地に續き、西は白川を挾んで、山麓丘陵の起伏する車鄉村と相對し、東南は直に廣濶なる平野に臨んでゐる。

白川以東の地は、原史時代以後に於て、土層篇に記すが如き火山岩屑及土砂の堆積多きため、先史時代の遺物は、丘陵地か或は開墾に依て發見するに過ぎないが、白川以西の丘陵地には、諸所に土器石器類を發見し、狩獵人としての彼等の住居地として、好適地であつたことが想像される。續いて原史時代に於ても、或は古墳の分布により、或は優秀なる古墳及其の出土品等に依つて、榛名山麓に於ける文化の中心地が、車郷から箕輪及上郊邊に在つた事が考察出来る。

箕輪町には、北方城山の丘陵及び其附近に、幾多の古墳存在せしが如く、今尙其遺物が時々發掘せられるが、墳丘は箕輪城築造當時破壊されしと覺しく、現在では其の一支丘なる椿山に石槨を露はした一墳丘を残すに過ぎない。其他は第一圖に見る如く、人家の東方に特殊の石槨を有する行人塚を初め、其南方の中内出に開墾



(一分萬五部量測地陸) 圖形地近附輪箕 圖一第

年石槨を發掘し、南隣地からも管玉等を發見してゐる。更に西南約一町を隔てた、道路の西側に八幡社があるが、先年社前の道路が洪水のために缺壞して、道路の中

から免れた數基の墳丘を認められ、又其西方井野川の東側にも墳丘と認め得るものが數基存在する。依つて見るに其兩岸は一帶の古墳群地であつたことと思はれる。此の上芝古墳址も亦其中の一基で、第一圖(印)之に隣接する北部の屋敷内からも、先

夾部から埴輪土偶・埴輪馬・圓筒等が出現して、現に東京帝室博物館に保管されてゐる。又之より約四町許り南の屋敷内にも、本古墳址の如く圓筒を廻らしたものと及び圓筒を廻らし且石槨の存するもの等が知られてゐる。

上芝古墳址並附近地籍調書

大字上芝字本町	一、〇九一	宅地	二八一坪	山田兵作
同	一、〇九二	宅地	一一六	増田銀治郎
同	一、〇九三(古墳址)	宅地	一六二	増田見一
同	甲一、〇九四	宅地	六六	増田銀治郎
同	乙一、〇九四	宅地	八六	同
大字西明屋字紺屋町	二二	畑	三〇五(歩)	増田惣太郎
同	二三	宅地	一一九	同
同	二六	宅地	一一八	同
同	二七	畑	四一四(歩)	町田恵市

第二節 發掘前の状態

本古墳址の存在する一、〇九三番土地は、數年前迄は人家が建てられて、他の屋敷と異なる所は無かつた。然し或過去迄は墳丘が在つた筈で、其時代に就いて少し考